

記事
Report



国際シンポジウムおよびワークショップ「カルスト台地の科学とジオパーク」のねらいと概要

Synthesis: Objective of the International Symposium and Workshop on Science and Geopark on Karst Plateau

脇田浩二^{1*}・末岡竜夫²・田中和広¹
WAKITA Koji^{1*}, SUEOKA Tatsuo² and TANAKA Kazuhiro¹

1: 山口大学 2: Mine 秋吉台ジオパーク
1: Yamaguchi University 2: Secretariat of the Mine Akiyoshidai Karst Plateau Geopark

2019年11月28日投稿, 2019年12月3日受理

シンポジウム及びワークショップの概要

2018年3月9日から10日にかけて、山口県美祢市の秋芳ロイヤルホテル秋芳館において、International Symposium and Workshop on Science and Geopark on Karst Plateau (カルスト台地の科学とジオパーク)と題して、山口大学秋吉台アカデミックセンターと美祢市の共催により、国際シンポジウムとワークショップが開催された(図1)。この秋吉台では、山口大学秋吉台アカデミックセンター、Mine 秋吉台ジオパーク、秋吉台科学博物館のそれぞれが、カルスト台地をベースとした科学研究活動を行ってきた。この国際シンポジウムとワークショップは、これまでの研究活動をさらに促進させ、そしてこの地域での研究活動の成果に基づいた「ジオ」の恵みと人々のつながりについて、国内外の研究者と、山口大学の学生や地域住民とが共に深く理解し、地域社会の未来を考えていくきっかけになることを目的として企画された。

1日目はシンポジウム(講演会)、2日目はワークショップという構成である。1日目のシンポジウムは、岡正朗(山口大学学長)の挨拶のあと、カルスト科学やジオパークについて研究や活動をしている国内外の研究者による7件の招待講演と8件の研究発表がなされた。2日目は、フィールドワークショップ、パネルディスカッション、グループワークからなるワークショップが行われた。これは、国内のジオパークに関心のある秋吉台周辺の地域住民らと、国内外の専門家との交流と意見交換を目的としたものである。

山口大学秋吉台アカデミックセンターは、2017年3月にオープンした山口大学のサテライト施設である。これまで、美祢市の多大なる協力のもと、様々な活動を実施してきた。このセンターは、山口大学の教員・学生に

地域での活動の場を提供し、地域科学を研究し学ぶ場として活用されてきている。また、美祢市にとっては、地域の人々とアカデミアとの接点として、生涯教育や地域発展の場として、重要な役割を果たしている。Mine 秋吉台ジオパークは2015年に日本ジオパークに認定されている。「カルスト台地に息づく地球と生命の歴史」をテーマとし、保全、教育、地域振興の活動を精力的に進めているジオパークである。秋吉台科学博物館は、美祢市立のジオパークの拠点施設である。この3組織が共同で国際シンポジウムを開催するのは、初の試みである。



図1 シンポジウム案内チラシ
Fig. 1 Symposium flyer

表1 国際シンポジウムにおける招待講演・研究発表
Table 1 Titles and presenting authors in symposium

招待講演	
佐野弘好 (九州大学) : Geological Study on Akiyoshi Limestone: History and Outlook (秋吉石灰岩における地質学的研究: その歴史と展望)	
Timo Kluttig (TERRA. Vita Geopark) : The UNESCO Global Geopark TERRA Vita: 17 Years of Promoting Geological Heritage in Central Europe (ユネスコグローバルジオパーク TERRA Vita: 中部ヨーロッパにおける地質遺産の17年に及ぶ関わり)	
Soo Jae Lee (韓国環境研究所) : On the Karst landscape of the Korean Geoparks (韓国のジオパークにおけるカルスト地形)	
Dhiti Tuliya (タイ マヒドン大学) : Geotourism Development in Karst Area, Kanchanaburi Province, Thailand (タイ王国カンチャナブリにおけるカルスト地域のジオツーリズム)	
渡辺真人 (国立研究開発法人産業技術総合研究所) : Geopark Activity in Japan (日本におけるジオパーク活動)	
目代邦康 (日本ジオサービス株式会社) : Success and Failure of Geopark Movement in Japan (日本のジオパーク運動の成功と失敗)	
Tran Van Tri (ベトナム地質学会) : Limestone Karst related Geopark and Geoheritage in Vietnam (ベトナムのジオパークや地質遺産における石灰岩カルスト)	
研究発表	
朝水宗彦 (山口大学) : Tourism Policies Related to Karst Plateau Areas (カルスト台地における観光政策)	
藤間 充 (山口大学) : Soil and Agriculture of Akiyoshidai (秋吉台の土壌と農業)	
藤川将之 (秋吉台科学博物館) : The Role of Akiyoshi-dai Museum of Natural History (秋吉台における博物館の役割 —現状と課題, 展望—)	
石田麻里 (秋吉台科学博物館) : Bats Inhabiting in the Akiyoshidai Area (秋吉台地域に生息するコウモリ類)	
村上崇史 (秋吉台科学博物館) : Limestone Cave in the Akiyoshidai Area (山口県秋芳洞上部に見えられた通路の地形的特徴)	
安藤奏音 (東京大学) : Tourism in Akiyoshi-do Cave (秋芳洞の観光客を対象とした観光満足度と自然環境保護意識に関する質問紙調査の結果と分析)	
大山 望 (九州大学) : Discovery of Primitive Hymenoptera from the Upper Triassic Mine Group, Southwest Japan (上部三畳系美祿層群産の起源的ハチ目の分類学的研究)	
中川孝典 (山口大学) : Radiolarian Fossils of the Akiyoshi Belt (秋吉帯の放射虫化石)	

シンポジウムの内容

シンポジウムは、2018年3月9日9時から18時の長時間にわたって実施された。シンポジウムの招待講演ならびに研究発表の講演者とタイトルは表1の通りである。

九州大学の佐野弘好教授(現:名誉教授)は、長年、秋吉の石灰岩の研究をなされ、その研究史を踏まえ、将来への展望を述べられた。ドイツのTERRA Vita ユネスコ世界ジオパークの専門員であるTimo Kluttig氏は、当該ジオパークの先進的活動を紹介された。韓国環境研究所のSoo Jae Lee氏は、韓国のジオパークにおけるカルスト地形について紹介した。2018年2月に開催された平昌冬季オリンピックの会場のすぐ裏手に広がる地域にカルスト台地をベースとしたジオパークが位置していることなどを紹介された。タイ王国マヒドン大学のDhiti Tuliya氏は、タイ西部のカンチャナブリ地域に広がるシブマス地塊上に堆積した前期古生代の石灰岩層を中心

としたジオツーリズムの可能性について紹介された(図2)。産業技術総合研究所の渡辺真人氏は、日本のジオパーク活動全般についての概要を説明し、日本ジオサービス株式会社(現:東北学院大学)の目代邦康氏は、ジオパークの成功と失敗について、主に地質遺産の保全の観点から問題提起をされた。ベトナム地質学会のTran Van Tri氏は、ベトナムに分布する石灰岩カルストから構成されるジオパークや地質遺産について紹介された。

ワークショップの内容

ワークショップは、2018年3月9日9時から18時にかけて実施された。午前中は、カルスト台地や鍾乳洞において、ジオガイドを含めたツアー(図3, 4)とそれについての、意見交換が実施され、午後は、徳山大学(現:鳥取環境大学)の柚洞一央氏をコーディネーターに招き、パネルディスカッションとグループワークが行われた(図5)。パネルディスカッションでは、講演者、山口大学学生、郵便局員、農業経営者、主婦からなるバ



図2 Dhiti Tulyad 氏によるタイのカルスト台地に関する講演
Fig. 2 Presentation on Karst Plateau Geopark Plan by Dr. Dhiti Tulyad,
Thailand



図3 拠点施設カルスターにおけるガイドツアーの様子
Fig. 3 Guide tour at the "Karstar" one of the Geopark Base Facilities



図4 秋吉台のカルスト台地上でのトレッキングツアーの様子
Fig. 4 Tracking tour on the Akiyoshidai Karst Plateau



図5 ワークショップにおけるパネルディスカッションの様子
Fig. 5 Panel Discussion in the workshop of the second day

ラエティーンに富んだパネリストからなり、「なぜジオパークに関わるようになったのか？」や「自分にとってのジオパークとは」などのテーマについて議論を交わした。グループワークでは、パネリストや講演者、一般市民が1つのテーブルを囲み、活発な意見交換が繰り返された。

成果と今後の発展

本シンポジウムとワークショップでは、ドイツ、韓国、タイ、ベトナムと、海外からの研究者やジオパーク担当者を招聘し、参加してもらった。期間中、同時通訳を配し、ヘッドフォンを介して日本語で彼らの経験や意見を聞くことができたので、Mine 秋吉台ジオパーク地域の一般市民も多くのことを学ぶことができた。また、老若男女様々な人々が参加し、意見交換を積極的に行ったことで、地域住民のジオパークへの理解も進んだ。こうした活動を行うことができたのは、この地に大学と地域を結ぶ、

山口大学のサテライトである「秋吉台アカデミックセンター」があったためであり、さらに今回の活動をもとにさらなる役割を考えることも可能となった。Mine 秋吉台ジオパークは、ユネスコ世界ジオパーク認定に向けて、鋭意努力を続けている。それに対して、山口大学秋吉台アカデミックセンターは、科学的な観点からのサポートを強力に推し進めていく予定である。

本特集号は、国際シンポジウムで発表された研究やそのときの現地での議論を踏まえた内容についての原稿募集を行い、投稿されたものである。これは、秋吉台での地球科学的な研究活動とジオパーク活動との結びつきを示すものであり、今後の日本のジオパーク活動や Mine 秋吉台ジオパークの活動のさらなる発展の礎になるものといえる。